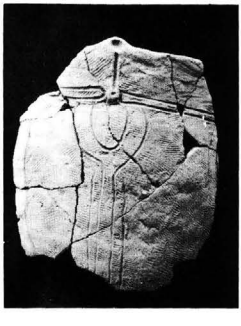
原始



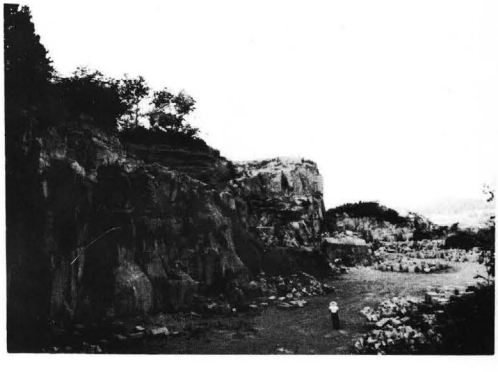
縄文式土器（柏山出土）

一、旧石器時代

人類が地上に登場したのは、地質学でいう第四紀の洪積世の初めであり、今から一〇〇万年もしくは二〇〇万年前と考えられている。

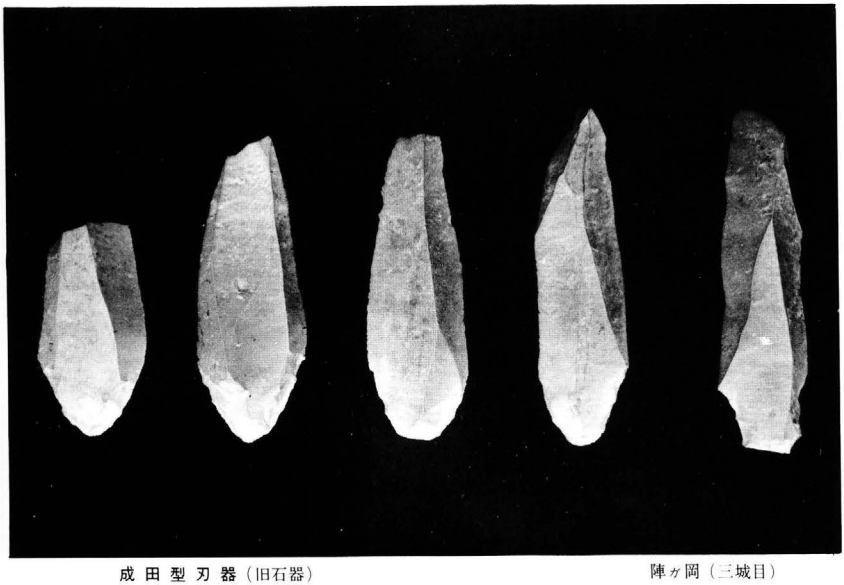
人類は、道具をつくり、発達させ、また精神的な思考を深めることによって、他の動物には見られない「文化」を創造した。それは長い道のりであった。最初は石を打ち割って作った打製石器が主要な利器であった。洪積世に属し、打製石器を使用していた時代を旧石器時代とよんでいる。

福島県内からも、後期旧石器時代の遺跡が発見されているが、その代表的な資料として、矢吹町三城目字陣ガ岡と鏡石町成田との境から発見された一群の石器がある。



陣ガ岡遺跡

阿武隈川の氾濫原に突出した丘地から、昭和二十二年、石材採掘事業中に、十数点の石器が発見され、首藤保之助により収集保管された。硬質頁岩を縦長に剥離し、基部に再調整を加えたもので、その特殊性から成田型刃器とよばれている。一四点中、数点が接合し、石器の製作工程を示す資料としても重視されている。その年代は約三万年前と推定され、現在のところ本県内最古の遺物と考えられる。



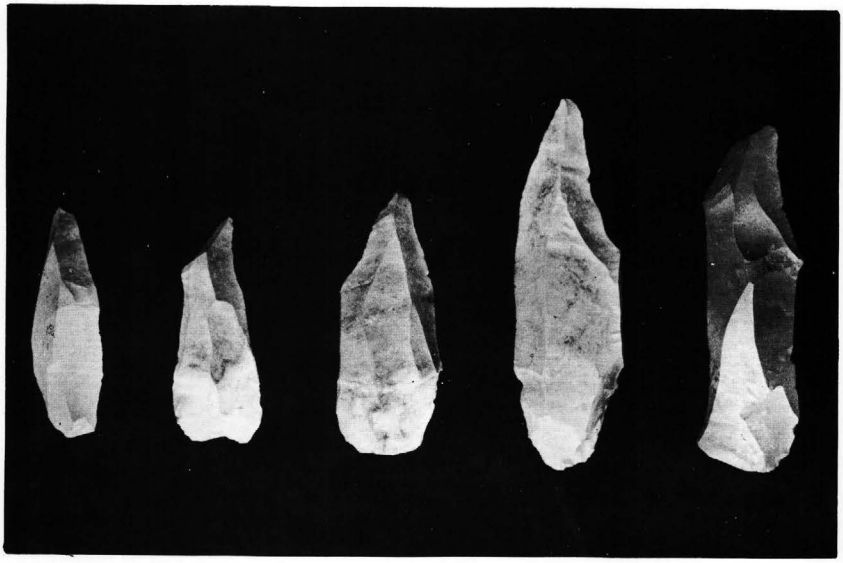
成田型刃器（旧石器）　　陣ヶ岡（三城目）

旧石器時代の生活

寒冷な気候、そしてローム（赤褐色の火山灰）を堆積させた火山活動の下で、旧石器時代の人々は、打製石器を用いて、狩猟と自生植物の採集とを生業としていた。すでに火を使用しており、石器以外にも木製品・骨角器皮革製品・繊維製品（編物）などもあったと思われるが、明らかにすることはできない。いずれにせよ、生活は厳しい自然との戦いであったろう。そのような条件の中で、人々はよりよい生活のため、わずかずつではあるが、新しい文化をきずいていったのである。

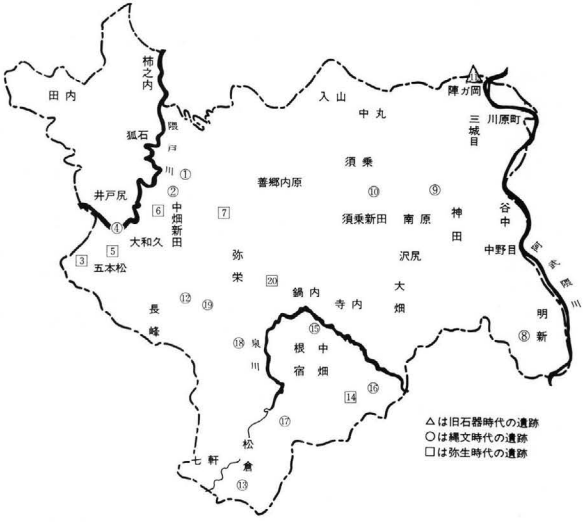
主なる原始時代遺跡地名表

遺跡名	県遺跡番号	所在地
①花咲山遺跡	1265	矢吹字花咲山
②大林〃	1266	〃字大林
③赤沢Ⓐ〃	2533	大和久字赤沢
④〃Ⓑ〃	2534	〃
⑤赤沢山〃	3391	大和久字赤沢山
⑥牛蒡作〃	3393	矢吹字牛蒡作
⑦一本木〃		中畑新田字一本木
⑧西原〃	1271	明新字明新原
⑨和田館〃	3397	三城目字和田館
⑩小又〃	3399	須乗字小又
⑪陣ヶ岡〃		三城目字陣ヶ岡
⑫柏山〃		中畑字柏山
⑬向原〃	3394	松倉字向原
⑭カヤマ〃		中畑字カヤマ
⑮下荒具Ⓒ〃		中畑字下荒具
⑯越中山〃		中畑字越中山
⑰渡池〃		中畑字渡池上
⑱松房池上〃		中畑字松房池上
⑲稲荷釜〃	2536	中畑字稲荷釜
⑳愛宕下〃		中畑字愛宕下



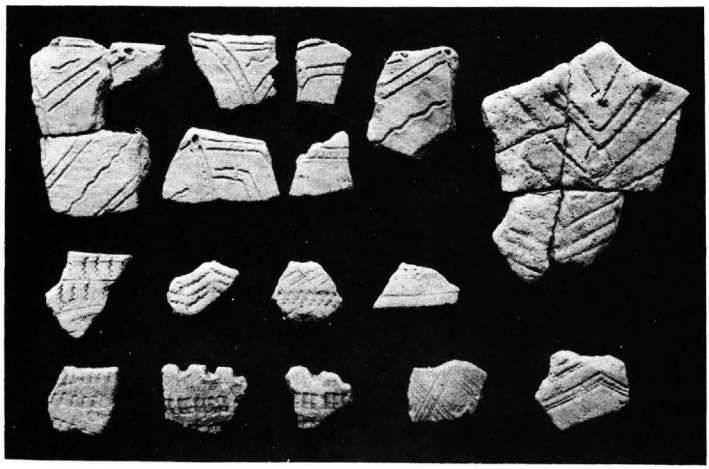
刃　　器（旧石器）　　陣ヶ岡　（三城目）

主なる原始時代の遺跡分布図



分布図の番号は前頁の遺跡地名表の番号と一致する

二、縄文時代



縄文式土器（早期）下荒具C遺跡

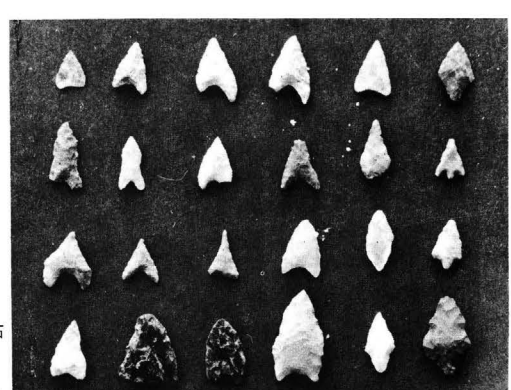
今から約一万年ほど前になると、寒冷だった気温もほぼ現在に近くなり、地質学上の沖積世にかわる。日本列島も、現在の景観を示すようになる。このころ縄文文化が登場する。

その特色は、石鏃・石斧をはじめとする各種の打製石器と、磨製石器および土器の使用である。土器は縄目の文様が多く用いられたことから、縄文土器とよび、この時代を縄文時代とよぶようになった。縄文時代は、約一万年前から二千年前までの約八千年間であり、孤立した日本列島内で独自の発展をなした。その発展段階により早期・前期・中期・後期・晩期の五期に大別され、さらに各期とも土器形式をもとに一〇期ぐらいに細別される。

下荒具C遺跡　中畑地区の中央を流れる泉川の南岸にあり、水田地帯を見下ろす台地上に位置している。昭和四十八年三月、県営圃場整備事業にかかるため発掘を行った。遺跡は発見されなかったが、縄文早期の土器と石器とが発見された。土器は薄手で、貝殻腹縁文・並行沈線文・連続突刺文など早期中ごろの特色をそなえている。底部は発見されていないが、早期の特色である尖底（底部が尖っている）であったと思われる。海産の貝殻腹縁文の存在は、会津の常世遺跡の例とともに、縄文早期における交易の問題と、文化の交流・流行の根強さなど、人間性そのものを感じさせる。縄文早期の遺跡は少なく、一集落は二～四棟と想定されている。

弓矢の出現

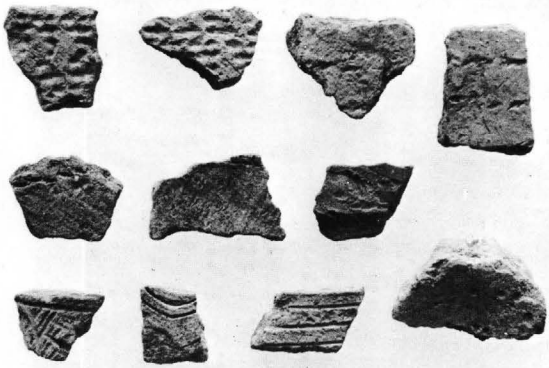
縄文時代は、石鏃をはじめ石錐・石匙（石小刀）・石槍・打製石斧・磨製石斧・石皿・凹石・石棒・石剣・石錘など、各種の石器が発達し、またシカ・イノシシの角・牙・骨などで作った釣針・もり頭・装身具も発達し、生業の発達を示している。なかでも石鏃は弓矢の使用を肯定するものであり、家犬の存在とともに縄文時代の狩猟に重要な役割りをはたしたものと考えられる。



石鏃

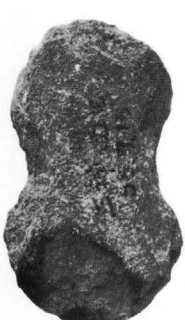
前期

土器は平底となり、各種の縄文が発達し、編物などの発達を推測される。福島県下では、前期の前半の遺跡はやや数を増すが、後半は数が少ない。矢吹町では前期の遺跡が三個所発見されており、他の時期に比して多いことが指摘される。

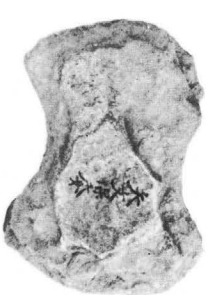


縄文式土器（前期）　松房池上

松房池上

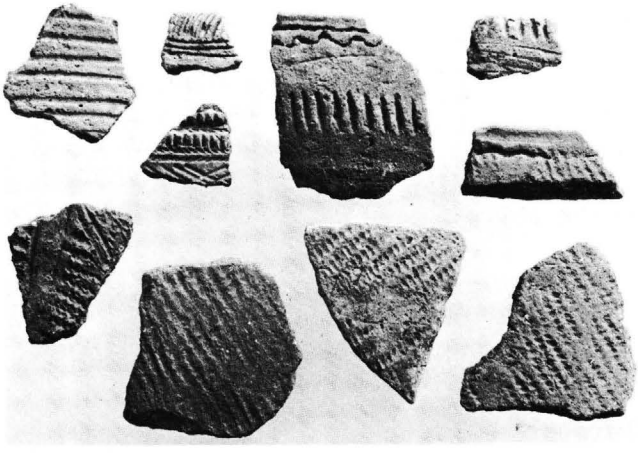


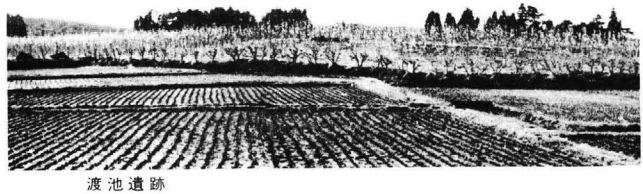
打製石斧　西原



磨製石斧　狐石

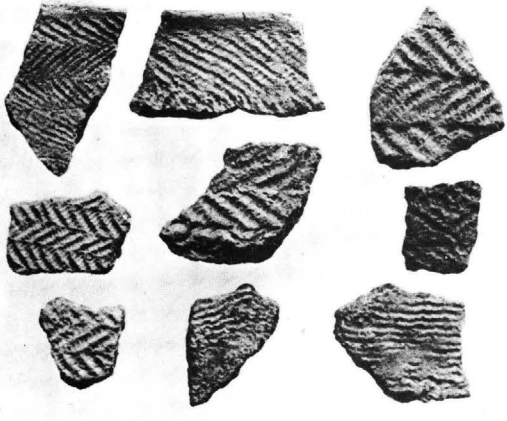
縄文式土器（前期）　渡池

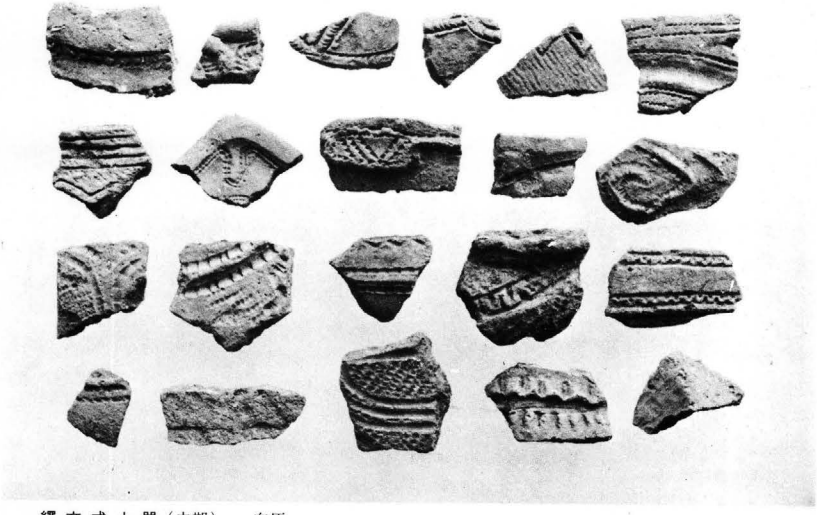




渡池遺跡

縄文式土器（前期）　赤沢山



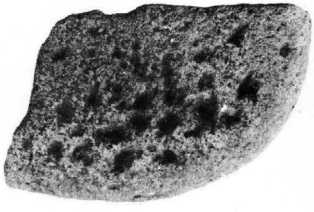


縄文式土器（中期）　向原

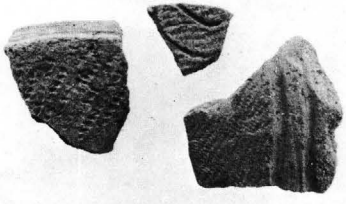
中期

中期になると集落の規模が大きくなり、また遺跡の数も増加する。土器は立体的に加飾された雄渾なものがつくられ、また土偶（土製の人形）・石棒・石皿などもつくられ、文化的に大きく飛躍した。

福島県内を中心に土器を埋没した大きな複式炉を持つ住居跡が発達した。



石　皿（裏面は凹石）

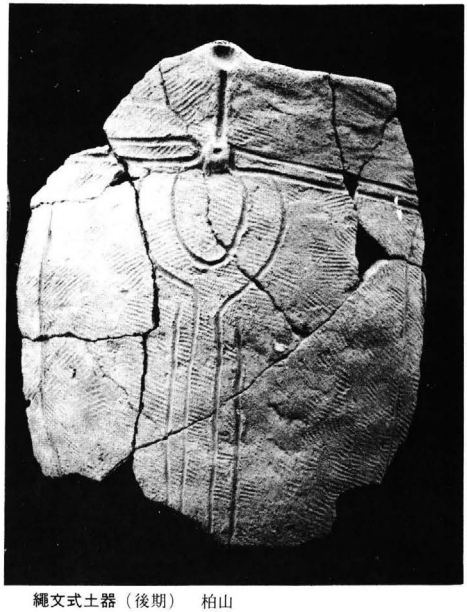


縄文式土器　北釜

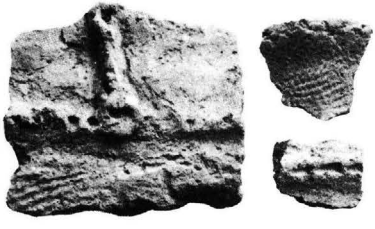
後・晩期

注口土器(土瓶型)・壺(つぼ)・甕(かめ)・鉢など各種の土器がつくられるようになり、また精製土器と粗製土器が使いわけされている。

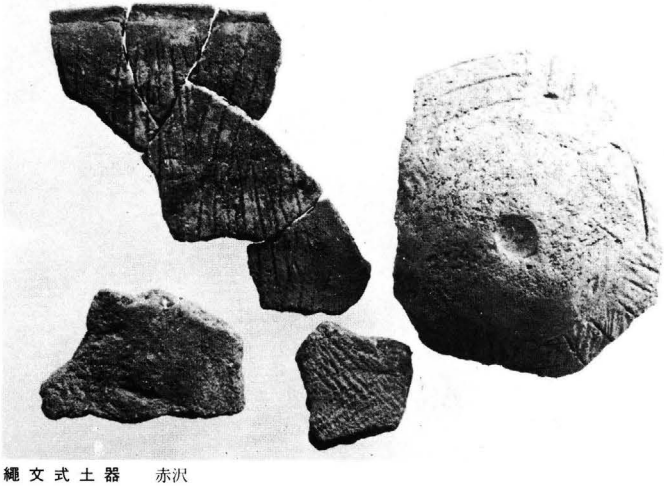
漆器などもつくられた。海岸地帯では漁撈が盛んに行われた。遺跡は、沖積世の低地にも進出し、採集物の変化が考えられる。



縄文式土器（後期）　柏山



縄文式土器（後期）　小室前



縄文式土器　赤沢

三、弥生時代

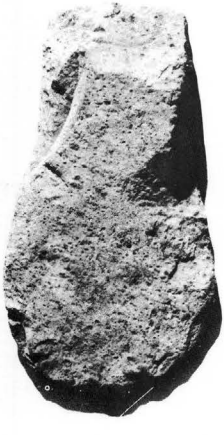
紀元前三世紀ころ、大陸文化の影響をうけて、北九州地方を中心に稲作・機・金属などを伴った新しい文化が誕生した。考古学上これを弥生式文化とよんでいる。

弥生時代は三世紀まで約六〇〇年ほどつづいたといわれるが、この期間を前期・中期・後期に分けている。

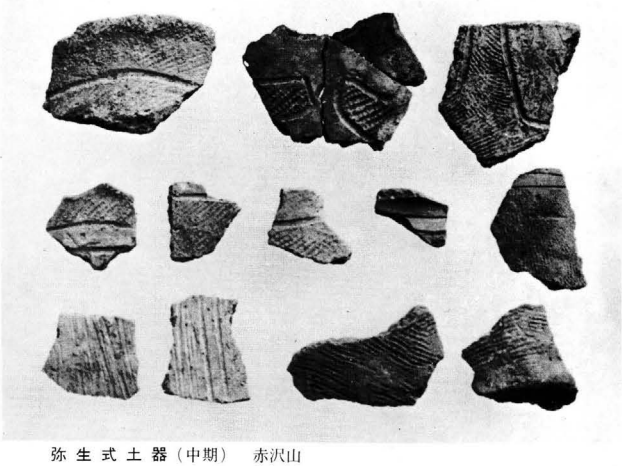
東北地方に弥生式文化が伝わったのは、中期初頭紀元前一〇〇年ころと考えられる。

縄文時代は自然物を採集して生活を維持したが、弥生時代になると、自ら田を起こし、穀をまいて生産するという新しい時代をむかえたわけである。

弥生式土器（中期）　一本木



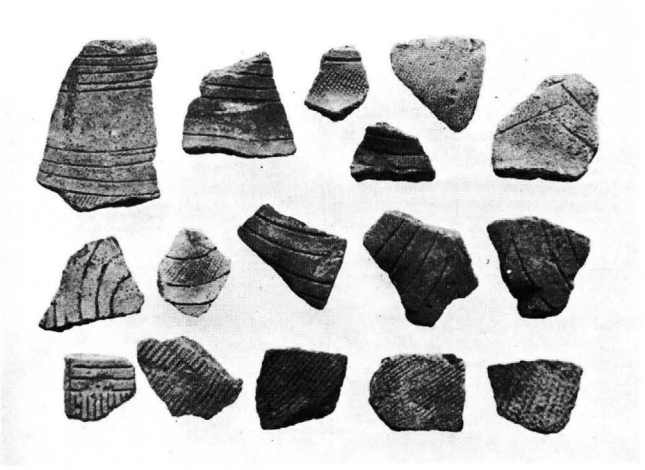
石　鏃　稲荷釜



弥生式土器（中期）　赤沢山

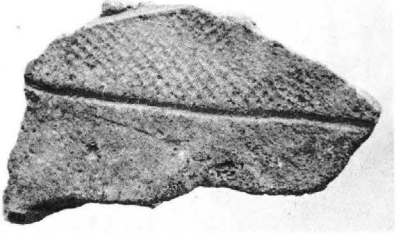
弥生時代の生活

稲作は、湿地帯を選出して木製の農具で耕作した。収穫は石包丁で穂だけを摘んだといわれる。福島県下では、金属器は発見されていないが、管玉の非常に細い穴の存在などから、すでに使用されていたと思われる。住居は竪穴住居であるが、倉庫は高床の建物が考えられている。

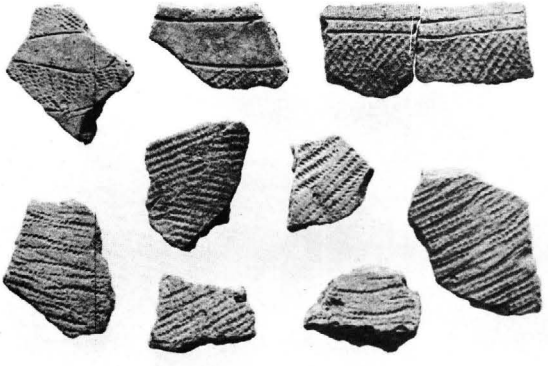


弥生式土器（中期）　愛宕下

管　玉　カヤマ



弥生式土器につけられた布痕



弥生式土器（中期）　カヤマ